

九州卸協 料金制度研修会

岡村企画官を招待



遠藤会長



叶次長

九州エルピーガス卸売協会(遠藤恭介会長)は11日、福岡商工会議所会館で「LPGガス料金制度研修会」原料費調整制度とメニユー料金の導入について」を開いた。今回は、九州エルピーガス卸売協会の栗原啓専務理事が「LPGガス料金と原料費調整制度について」、リンナイ営業本部営業企

画部テクニカルサポート室の石川佳司次長が「高効率機器販売のためのメニユー料金について」、カナデンブレイン経営戦略部の叶俊信次長が「原料費調整・メニユー料金の運用事例ご紹介」と題して講演した。

提供している公益性という性質がある。常に念頭に置かなければならないのは安全性・保安確保と、分かりやすい公正な料金体系。今回は、経営の根幹となる料金体系について、研修会を企画した。料金体系は、経営者の商売の姿勢そのものであり、哲学や特徴を表すもの。時代の要請に添えていかなければならない。参考にしてほしい」と趣旨を説明した。

流通課の岡村雄治企画官は、エネルギー基本計画の中のLPGガスの位置付けについて、最近のLPGガスの需給動向や見通しなどを解説。小売価格の動向については「料金設定や変更についての合理的な説明がない、そして小売価格の下方硬直性を指摘する声が多く寄せられている」と指摘。原料費調整制度の導入によって「CIP高騰による価格転嫁の円滑化、料金の透明性・公平性の向上、収益の安定化、経営の計画性の向上、業務の効率化などのメリットがある。また、消費者に対しての取引の安心・安全の提供は、顧客を守るためにもメリットとなる」と取引の適正化、料金の透明化への取り組みを促した。

原料費調整制度の説明に立った栗原専務は、導入にあたっての留意点として、▽基本料金や従量料金の見直し▽三部制料金やメニユー料金導入の検討▽制度導入に関する周知・教育の徹底▽導入のタイミングなどをあげた。そして同卸売協会が作成したシミュレーションソフトで、財務省CIF、円建てCIPの3カ月、6カ月インターバルのシミュレーション結果などを示した。

「Super X」の利用例として、▽調整単価の設定▽当月分や翌月分の調整単価の周知ができる検針票▽多種多様な請求・回収手段への対応などを紹介。また、新料金メニユーの導入・運用事例として、「Super X」による時間帯や消費機器別の料金対応を紹介。テレメ検針やシャック接続による検針で、分計機能付きメーターから簡単に検針データを収集し、分計の内訳や料金の割引率を効果的に顧客へ伝える圧着はがき、検針伝票を紹介した。

同システムの利用例として、得意先検索ツール「マジカルコンポ」による高効率機器ターゲット得意先の抽出などで、保安・販売データの活用を促した。